

第13期社会工学研究会
アジアダイナミズム班

わこう

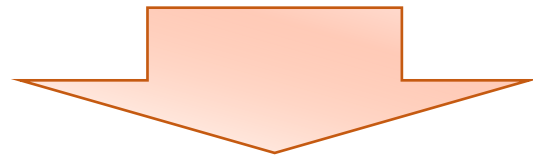
倭寇とモンゴル帝国史

～海洋の渡海民と大陸の遊牧民～

学部生 : 田中 天野 羽田 山埜
大学院生 : 三田 谷ヶ崎 北山 山内 井内 森 森田 越田
修了生 : 光永
指導教員 : 金美徳 水盛涼一

研究目的・方法

- ✓ アジア班が**目指す論文**は、歴史の視点から現代・将来を展望する
- ✓ **文献研究**と**フィールドワーク**を中心に研究活動を行う。
- ✓ **歴史的観点**、**経営組織論**、**国際経営論**からも分析
- ✓ フィールドワークは社会情勢や訪問先の都合等も踏まえ計画
- ✓ 2020年は新型コロナウイルスによる世界的な感染拡大を踏まえ、**パンデミックの歴史研究**を通じ、**ポストコロナの世界**を考えた。



2021年度のテーマは

倭寇



2017年～2020年 論文の結論

2017

「モンゴル帝国のユーラシア興隆史」 総107頁

得られた示唆

1. 「経済連携」による「平和と安定」
2. リーダーの「思想」と「視野」

2018

「モンゴル帝国の興隆と衰退」 総244頁

得られた示唆

1. 拡大から縮小過程の生き方：成長だけではない生き方
2. リーダーの資質：資質とガバナンスの低下
3. 祖国という感覚が薄いからこそ世界統一ができたのか

2019

「モンゴル帝国と朝鮮半島」 総84頁

得られた示唆

1. 大帝国の属国でありながらも自らの価値を最大化する立ち回り
2. 柔軟な思考と強固なアイデンティティによる国家（組織）維持

2020

「パンデミックのユーラシア史とポストコロナ」 総118頁

得られた示唆

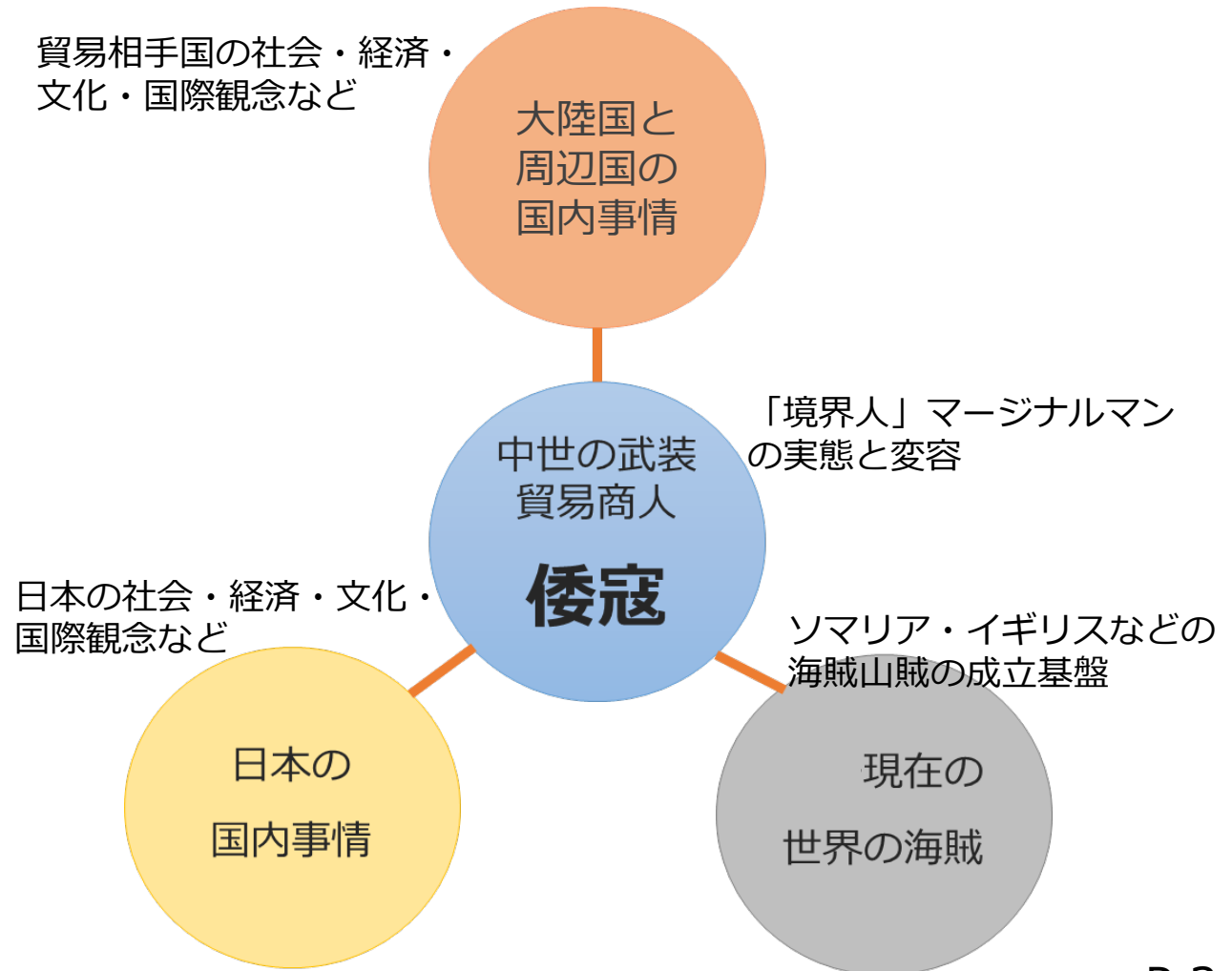
1. パンデミック発生時における人間の心情・行動変化
2. 現代に生きる日本人特有の衛生観念と気質・文化

2021年のテーマ (モンゴル帝国史5年目)



現代の**保護貿易路線**と**当時の貿易状況**を照らし合わせつつ、過去の**モンゴル研究**を活かし、**倭寇**を研究する

下記図を基に問題意識を抽出



テーマ構成

1章 中世の武装貿易商人 倭寇

2章 大陸国と周辺国の国内事情

3章 日本の国内事情

4章 現在の世界の海賊

問題意識（合計15件）

1. 中世の武装貿易商人 倭寇

- 王直とは何者【谷ヶ崎】
- 「境界人」として、アデンティティとは何なのか【田中】
- 媒介という観点から見たマージナル・マン【羽田】
- マージナル・マンが当時の日本国の政治に及ぼした影響【森田】

2. 大陸国と周辺国の国内事情

- 【中国】後期倭寇の南方中国人と、華僑の始まりとの関連性はあるのか【光永】
- 【中国・モンゴル・朝鮮】歴史の分岐点をつくった李成桂は、モンゴル（北元）中国（明）女真族（満州）倭寇とどの様に向き合い、対峙・対処してきたのか【光永】
- 【朝鮮】他の国から日本（対馬）はどういった認識だったのか【天野】
- 【琉球】周辺国がもたらした琉球・奄美への影響～思想・文化・言語の形成～【森】

3. 日本の国内事情

- 日本から見た倭寇はどのような位置づけになっていったのか【田中】
- 日本において倭寇が果たした役割【井内】
- 倭寇は善か悪か、倭寇以外にもこのような位置付けの民族は日本にいたのか【山内】

4. 過去現在の世界の海賊

- 海賊の存在が経済活動にどのような影響を与えてきたか【三田】
- ビジネスマンという視点から見る海賊【山埜】
- 民衆から見た海賊への印象の変化【森】
- ソマリランドの海賊から倭寇を俯瞰して見えるものとは。時代が生む海賊について【北山】

関連年表 (13~16世紀)

世紀	中国・モンゴル帝国	高麗・朝鮮	日本
13世紀	1252年 ビルマよりペスト流入 1271年 元 建国	1223年 『高麗史』に倭寇の記事がはじめて記載される 1244年 日本船高麗に漂着、略奪	1274年 文永の役 1281年 弘安の役 1297年 徳政令を発令
14世紀	1305年 元が5つに分裂 1363年 倭寇が蓬州を襲う 1368年 明 建国 1383年 明で海禁の制を厳重にする	1358年 高麗では倭寇により財政が窮乏 1372年 琉球の中山王が明に朝貢 1392年 高麗が滅亡し 李成桂即位	1350年 倭寇が高麗の各地を襲う(倭寇の活動が激化) 1366年 高麗の使者が出雲に着岸し、室町幕府に倭寇の禁止を要求
15世紀		1404年 室町幕府と国交回復、日朝貿易が盛んになる	1419年 応永の外寇 1467年 応仁の乱 が始まる
16世紀		1510年 三浦の乱 が起こる	1523年 寧波の乱 1543年 種子島に鉄砲が伝わる 1592年 文禄・慶長の役

時代背景

前期倭寇



14~15世紀

後期倭寇



16世紀

	14世紀	15世紀	16世紀
日本	鎌倉	室町	安土桃山
中国	元	明	
朝鮮	高麗	朝鮮（李氏朝鮮）	
沖縄	三山時代 （北山・中山・南山）		琉球王国

倭寇とは

- 一般的に認識されている「**倭寇**」は、
 - 〔A〕 **14～15世紀の倭寇**（主に海賊活動）と、
 - 〔B〕 **16世紀の倭寇**（主に密貿易活動）とに大別
- 倭寇は東アジアの沿海諸地域を舞台とした海民集団の一大運動であり、**構成員は日本人に加え、朝鮮人・中国人・ヨーロッパ人**
- **倭寇の活動**は東アジア諸国の国内事情を母体とし、**国際関係の歪みを引き金として発生**
 - （〔A〕 蒙古の高麗侵入による進奉貿易の断絶／
 - 〔B〕 明の海禁政策による密貿易化）
- 中国大陸・朝鮮半島・日本列島・琉球列島・台湾・フィリピン・南方諸島地域の**諸国人民と歴史に関わりながら消滅**していった



14～15世紀の倭寇

- 行動目標 : 米穀などの生活必需品、ヒト
活動地域 : 高麗（朝鮮）の南部沿岸
⇒ 内陸・奥地への深侵入、明沿岸・・・朝鮮と交互
根拠地 : 対馬・濟州島
人数規模 : 兵数～3,000／船数～400余隻・・・大規模なもの／騎馬隊有り
構成 : 倭人*1～2割、沿岸地域の賤民*倭服・倭語を用いる海民、高麗・朝鮮人含む



〔対抗措置〕
朝鮮による倭寇の懐柔策

①投化倭人

- 内容 : 官職に取り立て〔日本居住者含む／接待・貿易権利〕
⇒朝鮮政府中枢へ進出
構成 : 対馬・壱岐・松浦の出身者等
対応 : 倭人同士で連携出来ないよう各州群に分置

②使送倭人・興利倭人

- 内容 : 使人として認定／商業活動許可者として認定
構成 : 西日本諸大名（海賊大將軍）の家臣等
・・・対馬宗氏、九州探題渋川氏、肥前松浦党の諸氏、筑前宗像社、薩摩島津氏等
対応 : 開港場としての三浦〔富山浦・乃而浦・塩浦〕 ⇒倭人居留地

③もとのまま海賊

- ⇒中国大陸へ・・・〔対抗措置〕明による「沿岸警・防備の嚴重化／日本への外交折衝」

前期倭寇

14世紀～15世紀の日本は、
鎌倉幕府滅亡期であり、モン
ゴル時代の富の残影を求め、
武装勢力（倭寇）が海賊行為
を行っていました。

16世紀の倭寇

- 行動目標 : 密貿易の調停、諜報活動 + 官憲対策のため武装 ⇒ 癒着・略奪・侵寇
活動地域 : 中国大陸沿岸〔浙江・福建・広東〕 ⇒ フィリピン・南海地域
根拠地 : 五島・薩摩・平戸（日本）、中国大陸沿岸、琉球（沖縄本島・台湾）
人数規模 : 兵数50,000～60,000／船数～1,000余隻
構成* : 明人主体、倭人、朝鮮人、ポルトガル人

*明官憲が自分の功績とするために明の盗賊やポルトガル商人も倭寇とひとくくりにしてきたケース有り



〔対抗措置〕
明による倭寇対策

①警備強化

- 内容 : 沿海の要衝に築城・官兵配置、沿海住民の内陸部疎開（清野の法）
効果 : 一部地域での一時掃討も、倭寇からの反撃あり一進一退の攻防

②倭寇首領の説得・謀略

- 内容 : 最大勢力であった王直（倭寇国の王）に海禁を緩め、貿易を許すと説得
結果 : 望郷の念に駆られた王直は明政府に投降（後に斬首）
効果 : 王直の就縛が他の倭寇集団に失脚につながり、弱体化 ⇒ 転戦の末消滅へ

③海禁令の解除

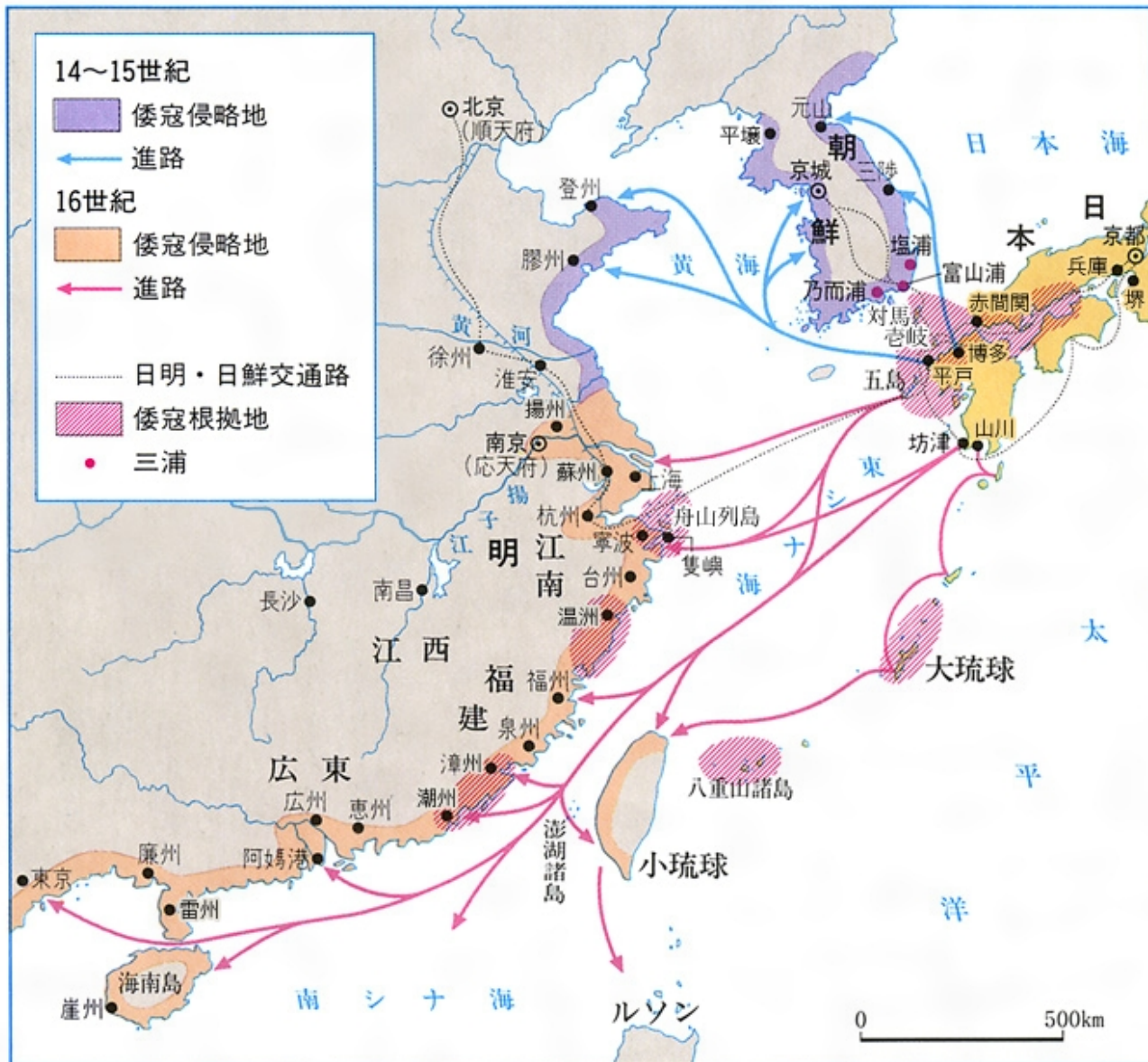
- 背景 : 倭寇の主原因が海禁と深い関係を持っていることが世論によって指摘された
結果 : 200年続いた海禁令を解除*（中国内地人の海外渡航許可・密貿易の公許化）

*南海方面への出航貿易に限定、日本渡航と禁制品の海外帯出は継続禁止

後期倭寇

足利義満の明朝服属・日本国王拝受も今は昔、貿易をめぐる現地での暴力行為が原因で国営貿易は途絶。ふたたび密貿易の時代へ。中国側はいよいよ富裕になり、周囲からその富を狙われている。

倭寇の活動地域



(現在でいう)
日本・韓国・中国・台湾の
沿岸部・海域



テーマ構成

1章 中世の武装貿易商人 倭寇

2章 大陸国と周辺国の国内事情

3章 日本の国内事情

4章 現在の世界の海賊

1章 中世の武装貿易商人 倭寇

1. 倭寇の原点と実像

(担当：谷ヶ崎)

- 古代海人族・安曇氏から中世倭寇国の王・王直に至るまで

2. 中世倭寇の活動と実態

(担当：羽田)

- 航路から紐解く交易手段と支配圏

3. 中世倭寇の影響力と爪痕

(担当：森田)

- 史料に残された記述から推察する中央政府と後世へのインパクト
～アウトローが築いた国家のルール

テーマ構成

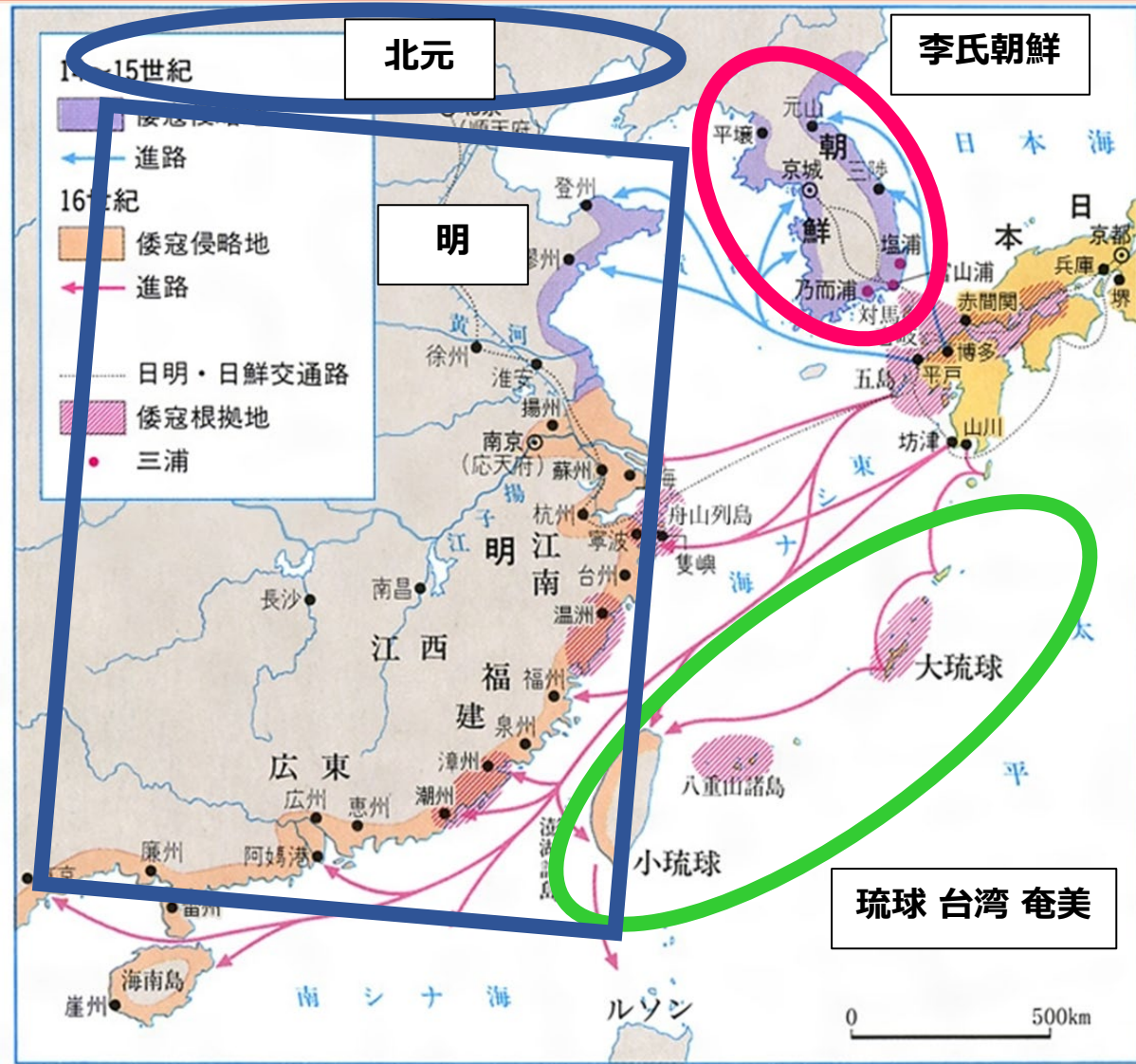
1章 中世の武装貿易商人 倭寇

2章 大陸国と周辺国の国内事情

3章 日本の国内事情

4章 現在の世界の海賊

2章 大陸国と周辺国の国内事情



元・明：① 明と北虜南倭（北のモンゴル南の倭寇）
 （中国） の攻防と貿易・外交問題

北元：② モンゴル・倭寇と華僑形成への
 （モンゴル） つながり

担当者：光永

琉球：① 他国との交易によりもたらされた
 台湾 文化・習慣

奄美 ② 他国・倭寇への役割

担当者：森

高麗：① 対馬をどう認識していたか

李氏朝鮮 ② 李成桂と倭寇・モンゴル・明・満州
 （朝鮮） との対峙

担当者：天野・光永

テーマ構成

1章 中世の武装貿易商人 倭寇

2章 大陸国と周辺国の国内事情

3章 日本の国内事情

4章 現在の世界の海賊

3章 日本の国内事情

1. 倭寇は善か悪か (担当：山内)

- 倭寇を作り出した日本の時代（文化）背景

2. 日本から見た倭寇の位置づけ (担当：田中)

- 分国法・日本の法律 この時代の背景

3. 日本において倭寇が果たした役割 (担当：井内)

- 西日本諸大名との関係と倭寇の影響力

テーマ構成

1章 中世の武装貿易商人 倭寇

2章 大陸国と周辺国の国内事情

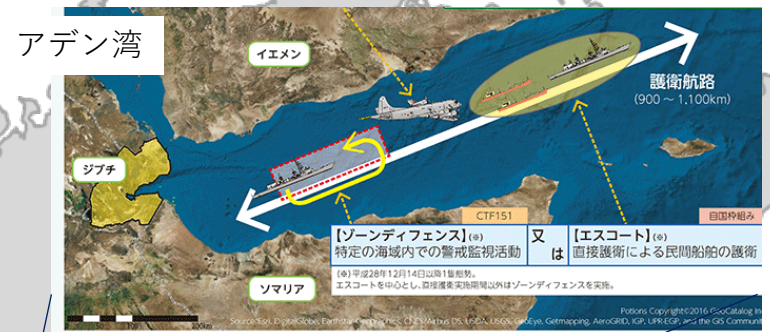
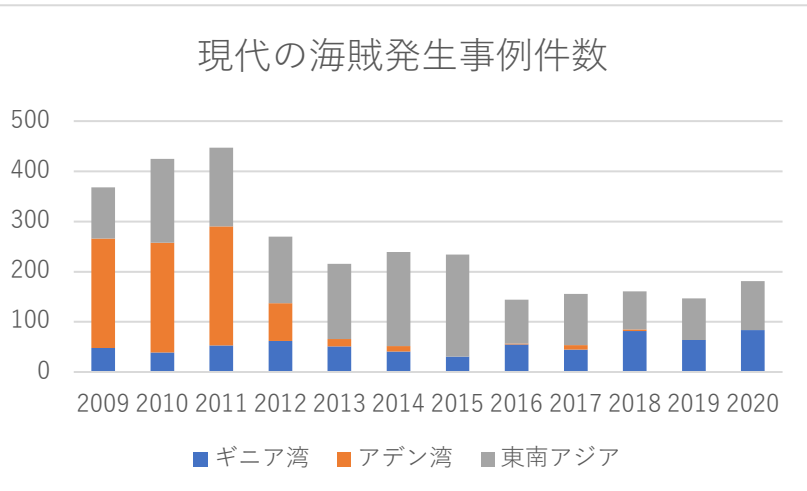
3章 日本の国内事情

4章 現在の世界の海賊

4章 現在の世界の海賊

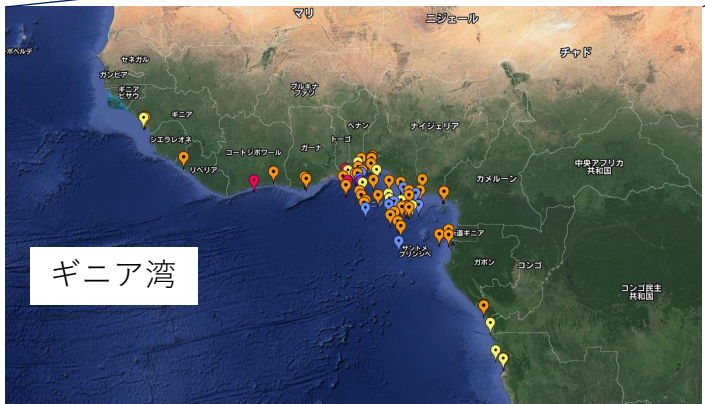
現代における海上輸送が拓いたグローバル化と海賊ビジネスが経済に与える影響

出典：外務省・防衛省ホームページ

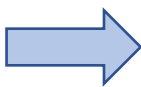


- カテゴリー1: 1件
 - カテゴリー2: 6件
 - カテゴリー3: 18件
 - カテゴリー4: 70件
 - ▲ 未遂事案: 2件
- ※カテゴリー1-4はReCAAP-ISCが定めた基準。カテゴリー1がハイジャック等の最も深刻な事案。2、3、4の順で深刻度が低下。

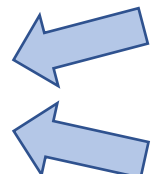
出典：外務省ホームページより筆者作成



貧困



海賊ビジネス



生活の安定

各国の海賊対策

年間スケジュール

春

回	月	日	議 題	文献調査	フィールドワーク	備 考
7	6	5	研究計画発表 (中止)	次回ベース文献疑問など報告		
8		12	研究発表資料 (確認)	文献集計・目次		
9		19	分担発表 中間発表PPT確認・修正	文献集計・目次		
10		26	分担発表 中間発表PPT確認・修正	文献集計・目次	FW検討(仮)	
11	7	3	分担発表 中間発表PPT確認・修正			
12		10	分担発表 中間発表PPT確認・修正			
13		17	分担発表 中間発表PPT確認・修正			
14		24	分担発表 中間発表PPT確認・修正			
18	8	26	◆夏季合宿(中間発表) 箱根水明荘	発表者(役割分担): 1.研究概要、2.目次、3.内容、4.参考文献・研究計画・FW		
19		27	◆夏季合宿(中間発表) 箱根水明荘	発表者(役割分担): 1.研究概要、2.目次、3.内容、4.参考文献・研究計画・FW		
20		下旬	◆フィールドワーク実施?			

年間スケジュール

秋

回	月	日	議題	文献調査	フィールドワーク	備考
23	9	18	下期進行確認 分担発表	各執筆原稿の発表(状況報告)		年間スケジュール再確認 下期加入メンバー確定
24		25	分担発表	各執筆原稿の発表(状況報告)		
25	10	2	分担発表	各執筆原稿の発表(状況報告)		
26		9	分担発表	各執筆原稿の発表(状況報告)		
27		16	分担発表	各執筆原稿の発表(状況報告)		
28		23	分担発表	各執筆原稿の発表(状況報告)		
29		30	PPT日次レビュー 分担確認 論文提出日確認	各自完成版を持ち寄る		
30	11	6	講義なし(学園祭?)			多摩大学学祭(昨年度参考)
31		13	PPT日次レビュー 分担確認 論文提出日確認	全体を印刷して確認		
32		20	PPT日次レビュー 分担確認 論文提出日確認	全体を印刷して確認		
33		27	PPTレビュー AL祭・最終発表に向けて			
34	12	4	PPTレビュー AL祭・最終発表に向けて			
35		11	◆アクティブラーニング祭	アクティブラーニング(AL)祭 (多摩キャンパス?)		
36		18	◆論文発表			
37		25	◆論文提出日			メール送付期限
38	1	1	休講			
39		8	2019年度最終講義			
40		15	センター試験(休講?)			昨年度参考
41		22	◆論文提出/懇親会 (年度最終日)	最終論文(完成版)提出日		

フィールドワーク(案)

インタビュー候補者名	候補者の所属等
村井 章介	元 立正大学文学部史学科教授
金 柄徹	慶應義塾大学文学部教授
榎本 渉	国際日本文化研究所センター 准教授
近藤 浩一	東京大学大学院人文社会系研究科 韓国朝鮮文化研究
高田 貫太	総合研究大学院大学文化科学研究科 教授
木村 清	株式会社 喜代村 代表取締役
桃井 治郎	清泉女子大学 准教授

参考文献・論文等(全60件)

文献

- [1]田中 健夫 倭寇 海の歴史 講談社学術文庫 2012
- [2]羽田 正 東アジア海域に漕ぎ出す 海から見た歴史 東京大学出版会 2013
- [3]田中 健夫 倭寇と勘合貿易 ちくま学芸文庫 2012
- [4]東京大学史料編纂 描かれた倭寇「倭寇図巻と抗倭図巻」 吉川弘文館 2014
- [5]吉成 直樹 琉球王国と倭寇 森話社 2006
- [6]高野 秀行 謎の独立国家ソマリランド 本の雑誌社 2013
- [7]村井 章介 中世倭人伝 岩波新書 1993
- [8]寺島 実郎 脳力のレッスン180 -鄭和の大航海と東アジアの近世- 岩波書店 2017
- [9]宇山 卓栄 朝鮮属国史 中国が支配した2000年 扶桑社新書 2018
- [10]荷見 守義 世界史リブレット人38 永楽帝 明朝第二の創業者 山川出版社 2016
- [11]岡田英弘/神田信夫/松村潤 紫禁城の栄光 講談社 2006
- [12]岩井 茂樹 朝貢・海禁・互市-近世東アジアの貿易と秩序 名古屋大学出版会 2020
- [13]岩井 茂樹 東洋史研究叢刊 中国近世財政史の研究 京都大学学術出版会 2004
- [14]村井 章介 東アジアのなかの日本文化 北海道大学出版会 2021
- [15]吉成 直樹 琉球王国は誰がつくったのか 七月社 2020
- [16]榎本 涉 僧侶と海商たちの東シナ海 講談社学術文庫 2020
- [17]桃井 治郎 海賊の世界史 中公新書 2017
- [18]上里 隆史 海の王国・琉球 ボーダーインク 2018
- [19]ピーター・T・リーソン 海賊の経済学 NTT出版 2011
- [20]山内譲 海賊の日本史 講談社現代新書 2018
- [21]竹田いさみ 世界を動かす海賊 ちくま新書 2013
- [22]鈴木董 文字と組織の世界史 新しい「比較文化史」のスケッチ 山川出版社 2018
- [23]桃木至朗編 海域アジア史研究入門 岩波書店 2008
- [24]豊岡康史 <清朝史叢書>海賊からみた清朝一十八～十九世紀の南シナ海 藤原書店 2016
- [25]壇上寛 東洋史研究叢刊之七十八 (新装版 16) 明代海禁=朝貢システムと華夷秩序 京都大学学術出版会 2013
- [26]ウィリアム・H・マクニール 世界史 (下) 中公文庫 2008
- [27]白井米雄・桜井由躬雄編 新装世界各国史5 東南アジア史①大陸部 山川出版 1999
- [28]池端雪浦編 新装世界各国史6 東南アジア史②島嶼部 山川出版 1999
- [29]津本 陽 天翔ける倭寇<上> 角川文庫 1993
- [30]太田 弘毅 倭寇-日本あふれ活動史 文芸社 2004
- [31]関 周一 対馬と倭寇-境界に生きる中世びと 高志書院 2012
- [32]斉藤 忠 倭国と日本古代史の謎 学研M文庫 2015
- [33]長野 正孝 古代史の謎は「海路」で解ける PHP新書 2015
- [34]五木 寛之 サンカの民と被差別の世界 ちくま文庫 2014
- [35]沖浦 和光 天皇と賤民の国 河出文庫 2019
- [36]宮本 常一 日本文化の形成 講談社学術文庫 2014
- [37]上原 善広 幻の韓国被差別民「白丁」を探して 河出文庫2019
- [38]高田 貫太 海の向こうから見た倭国 講談社現代新書 2017
- [39]瀬川 拓郎 縄文の思想 講談社現代新書 2017
- [40]瀬川 拓郎 アイヌと縄文-もうひとつの日本の歴史 ちくま新書 2016
- [41]高橋 貞樹 被差別部落一千年史 岩波文庫 1992
- [42]高橋 典幸 中世史講義 ちくま新書 2019
- [43]村井 章介 古琉球 海洋アジアの輝ける王国 角川選書 2019
- [44]岡本 隆司 日中関係史「政冷経熱」の千五百年 PHP新書 2015
- [45]高野 澄 歴史を変えた水軍の謎 祥伝社黄金文庫 2012
- [46]小川 雄 水軍と海賊の戦国史 平凡社 2020
- [47]清水克之 戦国大名と分国法 岩波文庫 2018
- [48]井沢元彦 逆説の日本史9戦国野望編 鉄砲伝来と倭寇の謎 小学館文庫 2005
- [49]田中 健夫 東アジア通行圏と国際認識 吉川弘文館 1997
- [50]村井 章介 国境を超えて-東アジア海域世界の中世 校倉書房 1997

参考文献・論文等

論文

- [1] 三宅 亨 倭寇と王直 桃山学院大学総合研究所紀要 第37巻第3号 2012 https://www.andrew.ac.jp/soken/pdf_3-1/sokenk193-2.pdf
- [2] 北尾悟, 西村 さとみ 倭寇とは何か:歴史教育と歴史研究をめぐって 奈良女子大学教育システム研究開発センター 2018 <https://opac2.lib.nara-wu.ac.jp/webopac/TD00003412>
- [3] 吉成 直樹 琉球・沖縄文化の形成と外的衝撃 古代～中世平行期を中心に 法政大学学術機関リポジトリ 2013 <http://hdl.handle.net/10114/9293>
- [4] 稲本 守 欧州私掠船と海賊-その歴史的考察- 東京海洋大学研究報告 2009 <http://id.nii.ac.jp/1342/00000342/>
- [5] 真栄平 房昭 明朝の海禁政策と琉球:海禁・倭寇論を中心に 交通史研究67巻(2008) 2008 https://doi.org/10.20712/kotsushi.67.0_61
- [6] 二谷 貞夫 倭寇対策と通信使の創設:室町時代の朝鮮通信使 中等社会科教育研究巻33, p.103-106 2015 <https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/records/53231#/.YKduKqj7RPZ>
- [7] 近藤 浩一 東アジア海域と倭寇-9世紀末の新羅海峡との比較史的考察を通して-京都産業大学論集.人文科学系列.47巻.p.123-145 2014
https://www.google.com/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&ved=2ahUKewja4Kqzv9zwAhXJUN4KHaT3CCIQFjAAegQIAxAD&url=https%3A%2F%2Fksu.repo.nii.ac.jp%2F%3Faction%3Drepository_uri%26item_id%3D1407%26file_id%3D22%26file_no%3D1&usg=AOvVaw0hOE22LbHf07-r8HWi-Dmp
- [8] 浅川滋男 東アジア漂海民家船住居 鳥取環境大学紀要創刊号(2003.2)pp.41-60 2003

その他

- [1] 外務省 ソマリア沖・アデン湾における海賊問題の現状と取組 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/pirate/africa.html>
- [2] 金柄徹 「倭寇」から眺める海域世界 三田文学 No.139秋季号2019 2019